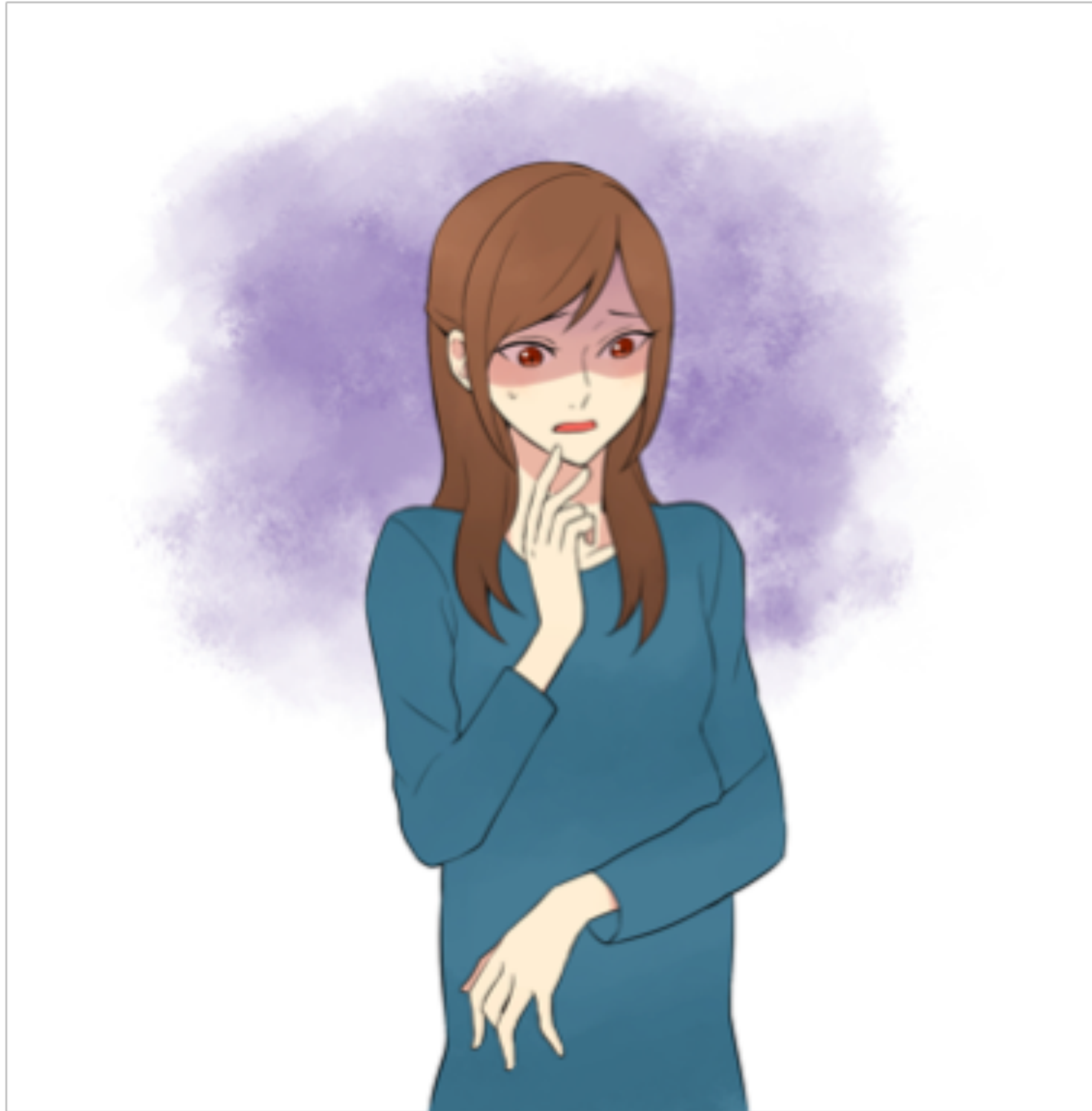


# 硬膜外麻醉分娩 和痛分娩



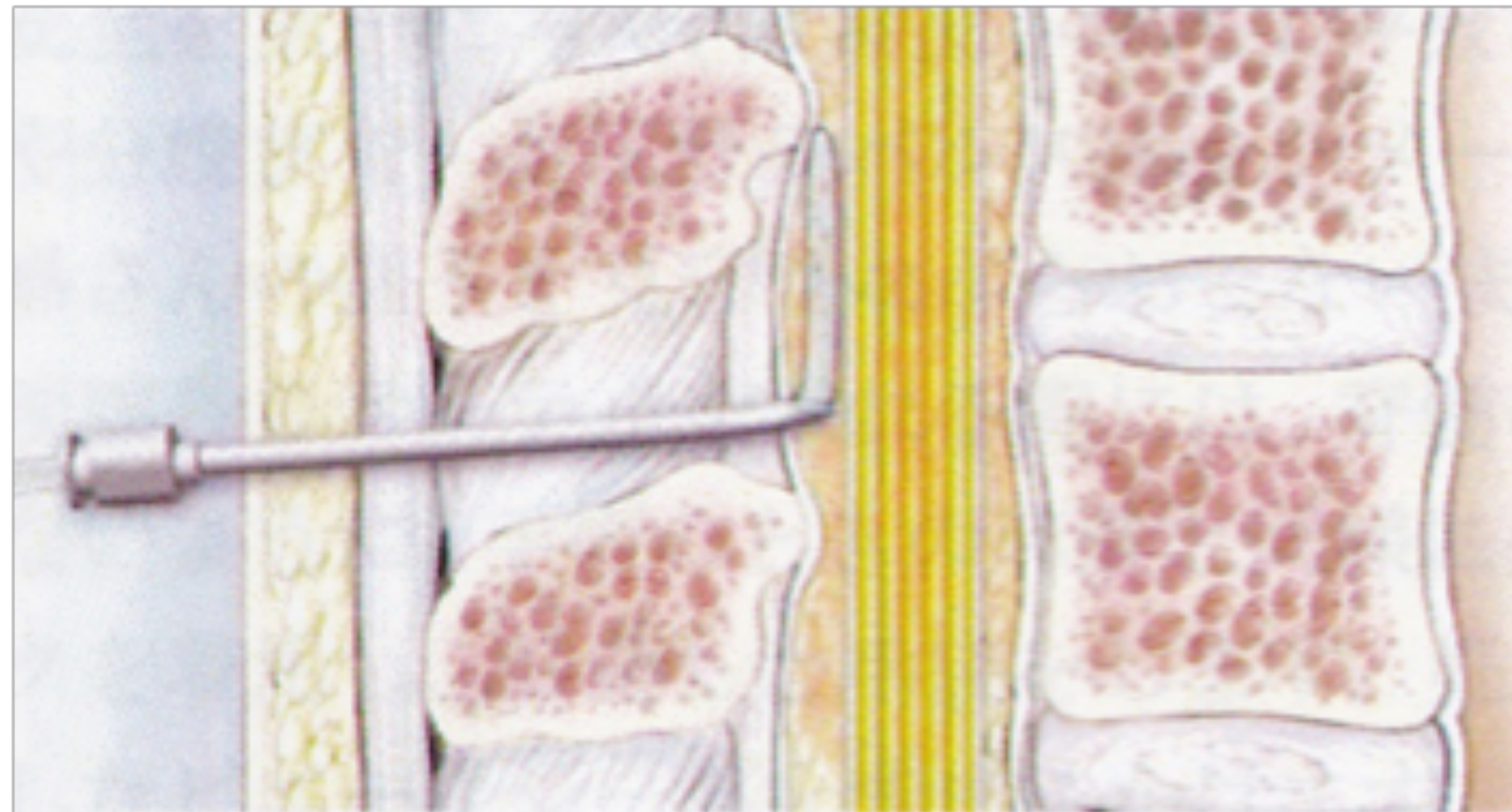
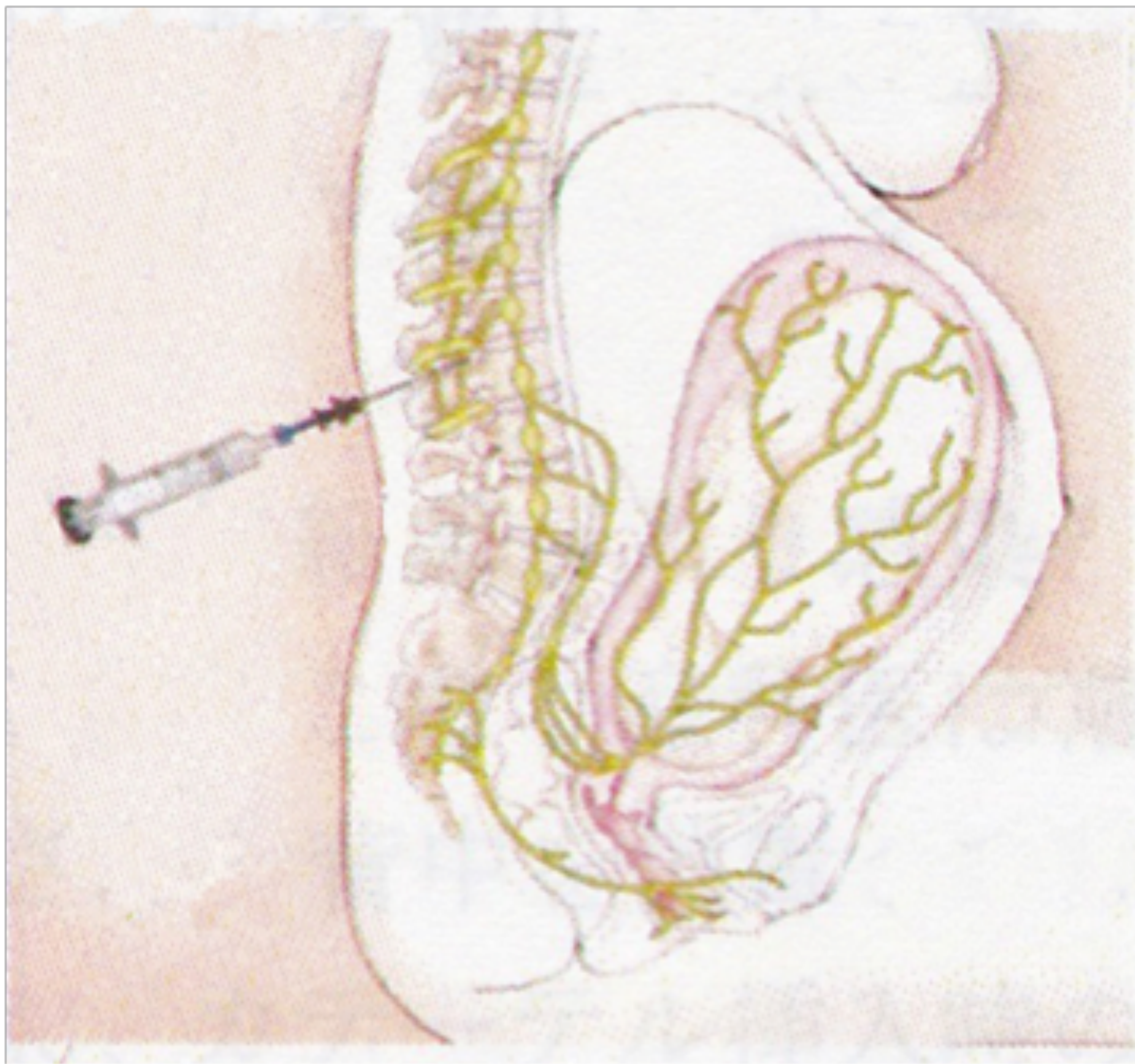


硬膜外麻酔による分娩には以下の様な場合に適応があります

①耐えられないほどひどい痛みがきたときは、筋肉が硬直して子宮口が広がらず分娩がスムーズに進まないことがあります。麻酔によりリラックスできて分娩がスムーズになることが期待できます。初産婦で痛みに弱く出産に対する恐怖心が非常に強いという方や経産婦で1回目につらい出産をしてトラウマになってしまった方などが対象になります。

②陣痛や「いきみ」で血圧が異常に上昇し、脳内出血などの重大な障害を招き生命にかかわる可能性があります。循環器系・血管系疾患や妊娠高血圧症など母体に重大な合併症がある方が対象となります。硬膜外麻酔分娩や帝王切開によりリスクを軽減します。





硬膜外麻酔は、硬膜外腔に留置したカテーテル（糸のような細い管）から麻酔薬を注入して、硬膜外から間接的に子宮や産道を支配している脊髄神経を麻酔する方法です。

# 硬膜外麻酔による分娩（和痛分娩）の実際



当院では計画的和痛分娩となります。  
夜間休日など時間帯によっては硬膜外麻酔分娩を希望されも行うことができません。

# 硬膜外麻酔による分娩（和痛分娩）の実際



## 前日（入院日）

①病室で点滴用のカテーテルを腕の血管に留置します。

②手術室で麻酔科医が、硬膜外麻酔のためのカテーテルを背中から挿入します。

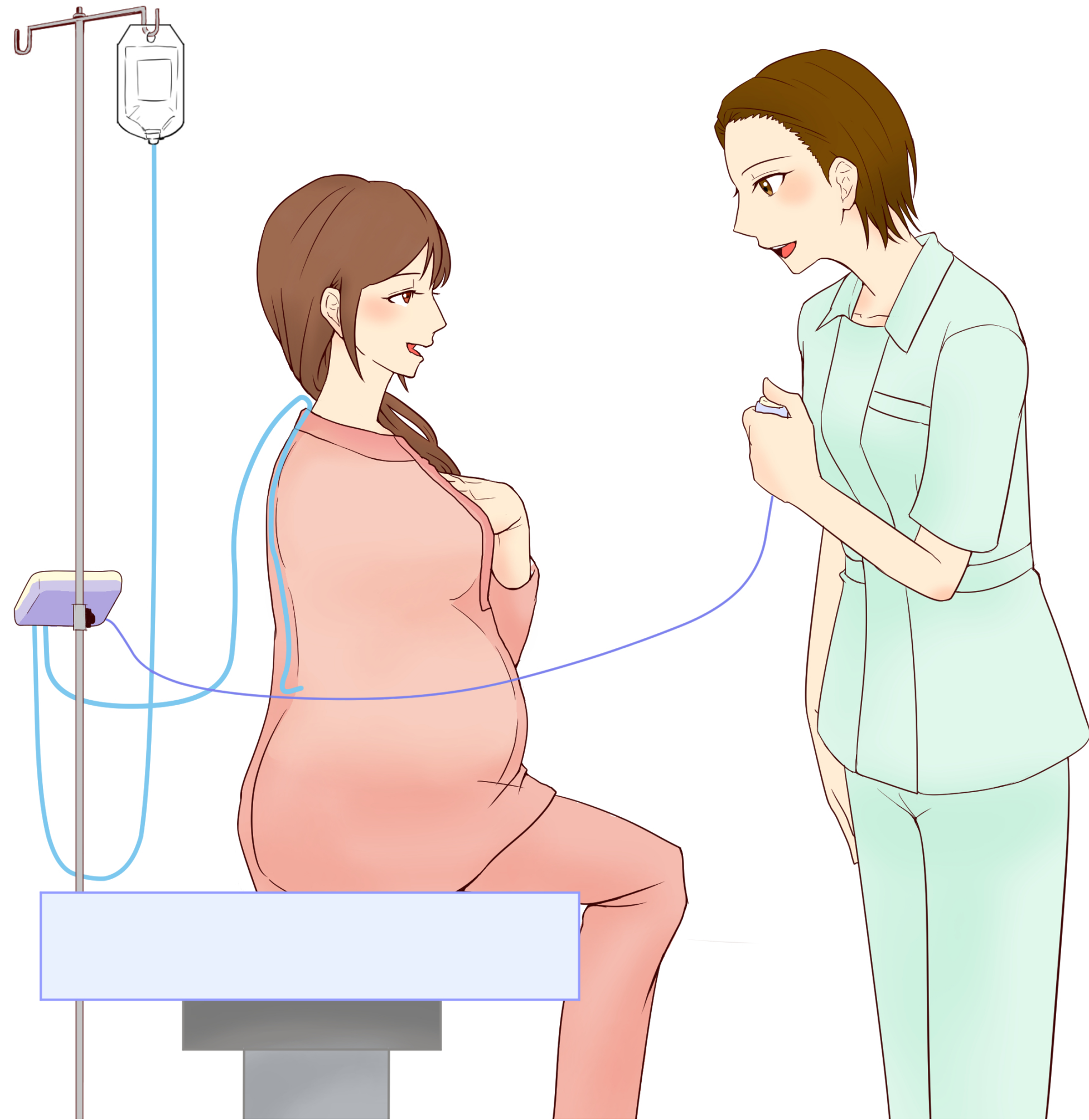
挿入部の皮膚炎や脊椎疾患、血液系に影響する合併症がある場合、技術的にカテーテル挿入が困難な場合など硬膜外麻酔を断念することもあります。

③診察所見により産道を開くための処置（子宮頸管熟化法）を行います。

## 当日

- ① 頸管の熟化、陣痛の誘発を行います（方法については別紙・同意書にて説明）
- ② 嚥下性誤飲を防ぐため、分娩の開始とともに絶食となります。  
食事から3時間以内のときは、エリーテンを麻酔開始時に1A静注します。
- ③ 麻酔は、以下の1)または2)の段階になると開始します。
  - 1)陣痛5分間隔で、子宮口が3から5cmに開大したとき
  - 2)痛みが強まり耐えられなくなったとき





- ④麻酔効果の範囲は得られているが、  
除痛効果が不十分であるとき  
妊婦がボーラスボタン（ボーラス量は5ml）を押します。  
1回押すと25分後にもう一度押すことができます。



⑤血圧を定期的に測定します。導入時、流量を変更した時、ポータス時は15分ごととします。ただし、流量が安定したのちは、1時間ごととします。

⑥怒責を開始するまでは、横向きで過ごします。片効きを防止するため、30分ごとに右下、左下を交互に変更します。

⑦麻酔中は安全の為、単独で歩行はできません。看護師が付き添います。

⑧自分で排尿することが困難になります。導尿をするか、尿道バルーンを留置します



## 硬膜外麻酔分娩（和痛分娩）には以下の様な問題点があります

- ① 完全に痛みがなくなるわけではありません。国立成育医療センターのアンケートにおいて、多くの方が20%程度に痛みが軽減し満足であったと回答しています。
- ② 硬膜外麻酔のためのカテーテルを背中から挿入するときに、血腫を形成することで神経を圧迫する事があります。血腫は自然に吸収され治癒することもあります。麻痺などの神経症状が続くときは血腫を取り除く手術が必要な場合もあります。
- ③ お産終了後にカテーテルを抜去しますが、通常、病室でカテーテルを引っ張ることで簡単に抜去できます。稀にカテーテルを簡単に抜去できないため、手術室で麻酔をして抜去しなければならないことがあります。

## 硬膜外麻酔分娩（和痛分娩）には以下の様な問題点があります

- ④ 麻酔薬が直接に脊髄腔に入り、脊髄麻酔になることがあります。硬膜外麻酔と違って直接に脊髄神経を麻酔するため、完全に下半身が麻痺します。麻酔薬を中止するとおおよそ2時間で麻酔効果はなくなり麻痺は解消します。
- ⑤ 陣痛が弱くなる。そのため分娩時間が長くなることとなります。陣痛促進剤（オキシトシンなど）を使用するケースが多くなります。また、『いきむ』方向性が自分でつかみにくく、いきみ出す力も弱いので、吸引分娩になる可能性も出てきます。
- ⑥ 急に血圧が下がる場合があります。極端に血圧が下がった場合、母体から胎児への血流が悪くなり、胎児の血圧、心拍数に影響が出ます。麻酔中は頻回に血圧を測ることになります。また、麻酔中は単独で歩行することは出来ません。

## 硬膜外麻酔分娩（和痛分娩）には以下の様な問題点があります

- ⑦ 尿意がわからない、うまく排尿できないなどの症状が多くの場合あらわれます。麻酔が終了すると元に戻りますが、麻酔中は尿道カテーテルを留置するか、助産師が導尿します。
- ⑧ 嘔吐により誤嚥性肺炎を起こすことがあります（メンデルソン症候群）。麻酔中は、絶食が望ましいです。
- ⑨ 薬物ショックやアレルギーショックが起きる可能性もあります。
- ⑩ 産後1週間程度、ひどい頭痛がでることがあります。

尚、硬膜外麻酔をすることで帝王切開になる確率はあがることはありません。また、麻酔薬は胎児に悪影響を与えることはありません。